

毎月、水戸地区の訪問看護の管理者が集合し開催されてる会です。

私が所属している水戸地区は、13か所で水戸・大洗・笠間周辺となります。

平成18年に開業してからの入会ですが、この2年間に休止で活動を止めるようになったのは4か所になります。止めた理由は、人員不足と経営方針の変更が殆どです。

逆に、新規に開業したのは1か所です。

患者のニーズはあるのに、地域を支える訪問看護が減少傾向であることはなげかわしいことです。

毎月のテーマは、ステーションで抱えてる問題点についての検討や政策的なテーマが主となります。

10月のテーマ：病院から在宅への移行について

現在、病院の在院日数は短く14日程度です。500床程度の病院は、4か所あります。1か所の病院は、転院先を抱えておりこれを後方病院と言いますが、この病院の方は短い入院で転院しています。この後方病院がない、病院の患者は在宅に行くか、自分で転院病院や施設を探すこととなります。ここで、活躍するのが病院内にある相談室です。ここには、MSW・NSの方がいて相談に乗ってくれます。しかし、短期間に決定しなければならないので中々決まらなかったり、家族の方が動けなかったりでほとんどの方は一旦在宅に帰らざるをえないのが実態です。

在宅になる場合は病院の相談室に、NSそれも訪問看護の経験がある看護師がいるとより具体的に相談に乗ってくれたり、地域への橋渡しがスムーズにでき

るようになるのです。どう動けば、在宅でも困らないのかが理解できているからです。

又、逆に退院後も症状の問い合わせや必要な材料についても問題なくできるので我々訪問看護にとっても、すごく有難い存在となります。

この様なNSがどの病院にも、いるわけではないので地域と病院の連携のためには相談室のNS定数は絶対条件になってくると思います。